

行政視察報告書

令和6年10月22日(火)～24日(木)

産業建設委員会

視察先・視察内容

① 富山県高岡市

- ・高岡まちなかスタートアップ支援施設「TASU」について
- ・御旅屋通り商店街の再生について

② 富山県氷見市 富山県栽培漁業センター

- ・富山県栽培漁業センターにおける漁業の推進について

③ 富山県富山市

- ・地場もん屋運営事業について
- ・中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくりについて

■派遣委員・同行者・事務局（合計 8名）

委員：川上 幾雄・田畑 敬二・村木 勝也・大谷 学・小川 稔宏・佐々木 豊治・牛尾 昭

事務局職員：庶務係長 大下 貴子

① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

■日時 令和6年10月22日（火）15:00～16:30

■場所 富山県高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ 4階
高岡まちなかスタートアップ支援施設「TASU」

■視察の目的（選定理由）

- ・浜田市内の駅前をはじめ、商店街衰退の対策のため、高岡市の商店街活性化の取り組みを学ぶもの。
- ・新幹線開通により、駅前の賑わいが旧駅周辺から、新幹線が通る新駅へ移行したが、市長の思いもある旧駅前の賑わい回復の取組を調査した。



① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[視察先の概要]

- ・ 人口は16万3,000人、面積は209km²
- ・ 富山県の北西部にあり、富山市に次ぐ県内第2の都市で、県西部の中心。
- ・ 西側は山間地域、北東側は富山湾が広がり、自然豊かな地域。
- ・ 伝統工芸や歴史的建造物が数多く継承されており、雨晴海岸からは海越しに3,000メートル級の立山連邦の大パノラマが見える。
- ・ 高岡市は平成17年、高岡市と西とは群福岡町が合併し新高岡市が誕生。

① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[視察先の内容 / 現状と課題・取組内容]

➤現状と課題

- ・ 近隣での大型店の増加
- ・ 特急利用者の移行(高岡駅→新高岡駅)
- ・ 北陸を代表する百貨店、大和高岡店の閉店

➤取組内容

- ・ 第4期高岡市中心市街地活性化基本計画(令和4年～令和9年)を立て実施。

主な柱は「交流人口の拡大」「まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実」など。



① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[視察の内容(1/2)]

○リノベーションまちづくり(御旅屋マーケットの開催)

- ・まちづくりは人が大事で、御旅屋マーケットで人を育てる。
- ・3月から1月、毎月第3日曜日にマーケットを開催。特徴は統一コンセプトでデザインなど統一して幅広い層に訴えている。
- ・出店料は誰でも挑戦できるよう、安く抑えている。
- ・事業主体は高岡市中心市街地活性化協議会で事業を行っている。
- ・令和4年度からはじまり、令和5年度は9回開催し、入込客数19,700人、出店者数は240店、新規出店も83件となっている。

① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[視察の内容(2/2)]

- TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)の開設
 - ・TASUには**コーディネーターが常駐し無料で相談**できる体制となっている。
 - ・シェアラウンジ(フリードリンク、カフェ、ワーキングスペースなど)とスタディスペース(自習スペース)も併設されており、**いろいろな人が集まるようなきっかけづくりが**込められている。
 - ・**無料で起業創業に関わるセミナー**などが毎日のように開催されている。



① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[視察の内容(2/2)]

○TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)の開設



自習スペース



各種資料閲覧



シェアラウンジ

① 富山県高岡市

「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASUについて」
「御旅屋通り商店街の再生について」

[委員会としての考察]

視察を通し、**浜田市は早急に中心市街地活性化計画を立て実行するとともに、見直し改善**していくことが必要と感じた。

その計画には、空き家や空き店舗だけでなく、高岡市が行っている**大家や入居者に対する支援、まちづくり会社による支援施設の運営、コーディネーターの常駐、また起業しやすい環境の整備・支援、などが生かされるとより良いものになる**と思われる。また、浜田市における「まちなか交流プラザ」や中間支援組織の内容・機能などを改善して、その計画に加える必要があると思われる。



②富山県氷見市

富山県栽培漁業センターにおける 漁業の推進について

■日時 令和6年10月23日（水）10：00～11：00

■場所 富山県氷見市姿15-1

富山県栽培漁業センター

■視察の目的（選定理由）

浜田市の基幹産業である水産業において、年々漁獲高が下がっている中で、陸上養殖も選択肢の一つであるが、栽培漁業の取組についても調査し、魚種の選定や今後の浜田市の漁業への展望について調査するため、同じ日本海側に位置する富山県の栽培漁業センターの取組について学ぶ。



②富山県氷見市

富山県栽培漁業センターにおける 漁業の推進について

[視察先の概要]

- ・ 設置者：富山県 ・ 運営委託：農林水産公社
- ・ 昭和53年稼働で令和2年から令和4年に改修し令和4年10月に竣工。
センターの改修は、国の交付金制度を利用、工費は12億3千万円。
施設は交流館約：627m²、ふれあい館約：1,163m²。
- ・ 主たる対象魚種：クロダイ、クルマエビ
- ・ 業務内容：管理運営、クロダイ種苗生産、クルマエビ種苗生産、親魚養成、
飼料培養、教育 産業観光対応など

②富山県氷見市

富山県栽培漁業センターにおける 漁業の推進について

[視察の内容 (1/2)]

- ・ 飼育海水の削減や病気発生リスクの低減を目的とした半循環飼育システムを導入、クロダイの生産能力16万尾を26万尾に増強し、展示室や見学施設など教育と産業観光の機能を併設している。
- ・ センターの一般開放では、交流館では研修室でお魚さばき教室など36人収容、展示室では県放流稚魚の生態展示・ゲームやバーチャル体験を通じた栽培漁業の学習ができる。



②富山県氷見市

富山県栽培漁業センターにおける 漁業の推進について

[視察の内容 (2/2)]

- ・ふれあい館は4つのコーナーがあり、
 - ① 見学コーナーはガラス越しにクロダイの種苗生産の様子を見学できる
 - ② タッチ水槽は放流稚魚や海辺の生き物触れることができる
 - ③ エサやり水槽は放流稚魚へのエサやり体験
 - ④ ふれあいプールは屋外プール内での放流稚魚とのふれあい
 - ・ふれあい館には、氷見高校が活用する実習室が併設され、海藻を食い散らすガンガゼを採捕して飼育している。



②富山県氷見市 富山県栽培漁業センターにおける 漁業の推進について

[委員会としての考察]

浜田市がこれまで継続してきた「養殖型施設計画」の継続も必要であるが、**今後は、栽培漁業センターの成果である水産教育による後継者育成**や、すでに育成が確立されている**キジハタ（赤水）の放流**や、現在研究中の「ノドグロ」の稚魚の購入栽培なども**加えて検討**していくことが必要であると考えます。

漁業振興策として大企業と取り組んでの養殖型も大事ではあるが、**スタートアップ企業（中小）との取組**を考えることも必要と思われる。

③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

■日時 令和6年10月23日（水）13：30～15：30

■場所 富山県富山市新桜町7-38

富山市役所（地場もん屋・グランドプラザ）

■視察の目的（選定理由）

中心市街地の活性化の中心事業の1つであるグランドプラザ整備事業は、平成20年度土地活用モデル大賞都市みらい推進機構理事長賞を受賞し評価されている。

また、人口減等を踏まえた富山市コンパクトシティ政策が参考になると考えたため。



③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[視察先の概要]

- ・人口は県内最多の約40万5千人（県庁所在地）。
- ・市の一般会計予算が1,758億円で中核市に指定。（令和6年3月）
- ・2005年4月に大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村と合併し、面積が約1,242km²(浜田市約690km²)と富山県の約30%を占めるまでに拡大している。
- ・富山湾の水深1,200mから北アルプス立山連峰3,000mまでの自然環境の中にあり、豊富な水資源を背景に稲作農業や医薬品・機械・金属等の第2次産業が栄えている。
- ・2015年に北陸新幹線金沢-長野間が開通したことによって東京-富山間が最短2時間7分で結ばれ交通環境が大きく変動している。

③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[視察の内容]

○地場もん屋運営事業について

- ・ 1市4町2村の合併によりそれぞれの独自の地場産物の販売促進から各地域が連携をして一体的な展開を目指し、富山市中心部で市内全域の地場農産物が購入できるアンテナショップとして平成22年10月に設立された。
- ・ 市内一等地である総曲輪三丁目の元ファッションビル1階を整備し、平成31年4月からは新たに統合して設立された株式会社富山市民プラザが115坪の売場面積を、営業時間10:00～18:30で通年(年始除く)運営している。



③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[視察の内容]

○中心市街地活性化及コンパクトなまちづくりについて

◆富山市コンパクトシティの施策3本柱

①公共交通の活性化について

- ・赤字ローカル線であったJR富山港線を公設民営で軽量軌道交通に再生をした。
- ・上下分離方式によって路面電車を環状線化し、**回遊性を強化した。**
- ・北陸新幹線開業を契機に、南側の市内電車と北側の富山ライトレールを富山駅高架下で接続し、市街地の南北分断を解消した。

③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[視察の内容]

○中心市街地活性化及コンパクトなまちづくりについて／施策3本柱

②公共交通沿線地区への居住誘導

- ・ **居住誘導区域を設定**して住宅を供給する事業者や新築・購入する市民に対し助成している。
- ・ 事業者に対しマンション1戸につき50万上限2500万円、新築戸建てについては35～50万円、スーパーマーケットなどの生活を支える事業者に対しては上限5,000万円の支援をして誘導している。

③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[視察の内容]

○中心市街地活性化及コンパクトなまちづくりについて

③中心市街地の活性化

- ・市税約742億円の約48%は固定資産税・都市計画税であるため、中心市街地への集中的な投資は税の還流という観点から合理的かつ効果的であった。
- ・再開発事業と連動し既存の3本の市道を集約することで空間を捻出してガラス張りの全天候型の多目的広場「グランドプラザ」を約15億円で整備した。



③富山県富山市

「地場もん屋運営事業」

「中心市街地活性化及びコンパクトなまちづくり」について

[委員会としての考察]

富山市では、市を取り巻く課題を明確にして柱となる対策（中心市街地活性化）に取り組み、活性化に小さな拠点をつなぐ公共交通の整備を活かしているとともに、まちづくり会社を活用した起点となる事業の運営や様々なイベント、市費を投じて整備された「グランドプラザ」を使った市民活動など、多様な方向から取り組んでいることがうかがえた。

人口規模は違うが、浜田市が抱える中心市街地内の空きスペースの活用にも、富山市のような市民参加型の施設や環境の整備が必要なのではないかとの思いを持った。



地場もん屋オリジナル商品
「カウヒーソフト」